

50~60代が危ない!

独居老人がますます増加するいま、人ごとではない「ひとりで死ぬこと」への覚悟と対策

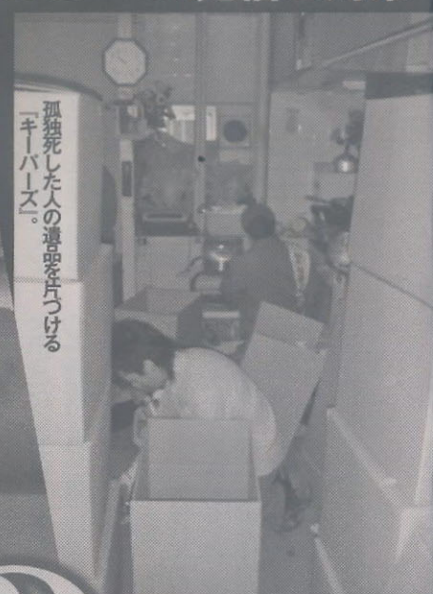


部屋が片づいていない状態で発見される人も多い。(写真提供/キーパース)

発見が遅れたため、床には人の形の跡が...



孤独死した人の遺体を片づける「キーパース」。

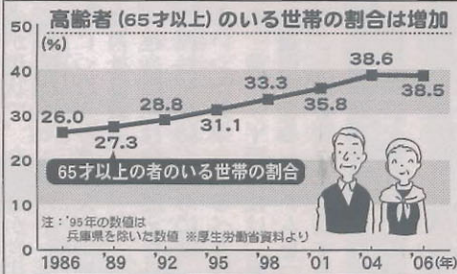


孤独死への心構え

死後3週間まで、その男性は誰にも気づかれることなく、団地の一角で死亡していた——高齢者世帯が増加し、ひとり暮らしの高齢者も増えるなか、「孤独死」も増加しているという。若く、家族がいても可能性のあるひとりの死を、あなたは覚悟できていますか？

神奈川県にある公団住宅。近隣から「異臭がする」との通報があり警察が駆けつけてみると、70代の男性が玄関近くの居間で倒れていた。死後3週間。その男性は誰に看取られることもなく、心筋梗塞で死亡した。台所の流し台は

使用していた形跡がなく、コンビニで買った弁当やインスタント食品の残骸が、部屋中に散乱していた。そして倒れていたカーベットには、人の形がくっきりついていた。男性は、妻が亡くなった後、ひとり暮らしをしており、娘とも連絡をとってはいしたが、結果的に「孤独死」となった。遺品整理専門業者の「キーパース」が扱った8000件以上の依頼のうち、部屋で亡くなっている人のほとんどが、単独死——いわゆる「孤独死」で、その数は1000件以上にも及ぶという。代表取締役の吉田太一さんは、こう語る。



65才以上の高齢者のいる世帯の割合は増加。70才以上の人口は、初めて2000万人を超えた(総務省推計人口より)。

高齢者で「ひとり暮らし」「夫婦のみ」の割合も増加

年	子供夫婦と同居	配偶者のいない子と同居	ひとり暮らし	夫婦のみ	その他
'86	46.7	17.6	10.1	22.0	3.6
'89	42.2	17.7	11.2	25.5	3.4
'92	38.7	18.4	11.7	27.6	3.6
'95	35.5	18.9	12.6	29.4	3.6
'98	31.2	19.1	13.2	32.3	4.2
'01	27.4	21.0	13.8	33.8	4.0
'04	23.6	21.9	14.7	36.0	3.8
'06	22.3	21.6	15.7	36.5	3.8

注：'95年の数値は兵庫県を除いた数値 ※厚生労働省資料より

子供夫婦と暮らし高齢者は減少、ひとり暮らしや夫婦のみの割合が増加している。

「男性が圧倒的に多く、約7割を占めます。彼らの共通点は、電化製品や家具などが壊れていても修理しておらず、冷蔵庫の中も賞味期限切れのものでいっぱい。つまりは生活が「壊れて」いるのに、それを元通りにする努力をした形跡がないのです」

また、「独立行政法人都市再生機構」が管理する賃貸住宅約77万戸で、「ひとり暮らしで、誰にも看取られずに死亡した件数」は、'99年度が207件だったのに対し、'07年度には589件に増加している。

たとえ家族がいても、離れて暮らしていれば、孤独死する可能性は充分にあるのだ。しかも「高齢者」のイメージがある孤独死だが、実は、50~60代に多いという。千葉県松戸市にある常盤平